



西中だより

H28 第7号
H. 28. 10月
発行責任者
校長 荻野昭彦

今年度の本校の**全国学力・学習状況調査結果**（概要）をお知らせします

全体的な状況

今年度は、**国語**と**数学**の2教科で、**A問題**と**B問題**という2種類の調査とアンケート形式で行う「質問紙調査」が実施されました。（「質問紙調査」結果については、あとで触れます。）

※**A問題**は、「基礎的・基本的な内容として、身に付けておかなければ後の学年等の学習に影響を及ぼす内容」
B問題は、「知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容」とされています。

本校の3年生の結果は、2教科ともA問題もB問題もわずかではありますが、**県や全国**の平均正答率を上回っていました。特に、2教科とも**A問題よりB問題の方がいい結果**でした。さらに、**無解答率**も県や全国より高かった問題が多くみられました。

この結果から、本校の生徒がこの調査に粘り強く、よく問題等読みながら、**思考力や判断力を発揮して臨んだ**のではないかとこのことを考察することができます。

問題別にみられた、**本校の課題**（県や全国より低かった内容）及び**改善方法等**

国語A

- ▼「漢字の読み書き」で正答率の低いものがあった。（基礎・基本なので、地道に努力し身に付けていきたい）
- ▼選択式にもかかわらず、いくつか「**語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う**」ことができなかった。（一番適切なものを選ぶという判断力を伸ばしたい）

国語B

- ▼「**文章の展開に即して内容を理解する**」問題に対する正答率が、少しだけ低かった。（日常的に文章に触れる機会を増やし、長文に対する苦手意識を減らし、読んだものを流れや展開に即して整理できるように心がけさせたい）

数学A

- ▼「**自然数の意味**」を問う問題の正答率が低かった。（基礎・基本なので、早めに修正したい）
- ▼「**一次関数や一元一次方程式について**」問う問題の正答率が低かった。（文字式に対する苦手意識を取り除くことや、関数の概念など理解を深めるよう取り組みたい）

数学B

- ▼「**グラフの傾きを事象に即して解釈することができる**」かを問う問題の正答率が低かった。（数学A同様に文字式や関数への強化を図り、特に、関数については、グラフなどに具体的に表す作業などをできるだけ多く経験させていきたい）

《**教科における 今後の主な改善点**》

4つの調査結果がおおむね良い状況だったこともあり、現在の良い状態をさらによくしていくための視点等を整理したいと思っています。その点で、気になることはたくさんありますが、授業を参観して一番思うことは、「生徒に深く考えるようになってほしい」とことと「互いの考えを表現し、互いに少しでも良くしようとするコミュニケーション能力を高めたい」ということです。この2点の改善点中心に次のことに、継続して取り組んでいきたいと考えています。

- 毎時間の目標や課題を明確にする
- 物事の意味や理由などわかりやすく表現できるようにする
- 生徒が主体的により考えや新たな発見を見つけようとする雰囲気をつくる

「質問紙調査」結果から見える本校生徒の特徴

- ・基本的な生活習慣や学校や学級に対するイメージなどを中心に、多くの項目で県や国よりよい状況が見られました。
- ・本校の特徴的な何点かを以下に書き出してみました。

○「朝食を毎日食べていますか」といった、**基本的な生活習慣**を問う質問は、**おおむね良い傾向**で、家庭や地域に支えられていることが実感できる。

◎「学校で、**好きな教科**はあるか。」という問いに、**そう思う**と答えた生徒が**非常に多く**、県や国の割合も大きく上回った。

△授業中に自分の考えを発表する機会が与えられていたという回答は多かったが、**生徒間での話し合い**については、それほど良い結果ではなかった。

○ゲームやメール・インターネットの使用については、**長時間使用**する割合を中心に、県や全国の状況より、**自粛している状況**が見られる。

○学級などでの話し合いがきちんとなされている状況や、友人と折り合いをつけながら話し合えることができている様子が見られた。

△自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、**資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表**したかという回答はよい状況ではなかった。

△宿題や予習をしている割合は県や全国に比べ多かったが、**復讐への取組が少し劣っていた**。しかし、家庭での学習に自主的に取り組む様子も見られた。

▼**地域社会などでボランティア活動**に参加したかという質問には、「参加したことがある」という回答が、県平均よりかなり少なかった。

△授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと回答した割には、授業の中で**目標(めあて・ねらい)が示されていた**と思うという回答が少なかった。

今後の本校における具体的な取組について

- ① 本校では、校内研究会において「**自ら考え、判断し、表現できる生徒の育成**」を目指し、取り組んでいます。

わたしたちは、毎時間の授業で、「小集団を活用」したり「学びの記録」に取り組んだりして、ただ単に単語や用語などの固定的な知識(ある特定の事象しか説明することができない知識)の蓄積(暗記)でよいと思っているような生徒に、たくましく生きていくための資質や能力が育成されることを目指しています。これらが実現されるように、教科ごとの話し合いをしたり、全体で研究会をしたり、授業を見ながら実際に改善点を明確にしたりしています。

- ② 新しい学習の方向性を目指し、**不断の授業改善に取り組んでいます**。

次期学習指導要領改訂に向け、これからの教育が目指すべき方向性が示されています。①とも連動しながら、この新しい教育の流れなど意識して、不断の事業改善に取り組んでいます。

キーワードとしては、「社会に開かれた教育課程」と「アクティブラーニング」です。まず、生徒が将来地域や社会、世界とどのようにかかわるのかを念頭に置きながら、『深い学び』『対話的な学び』『主体的な学び』が毎時間の授業の中で実現できるよう授業改善を行っていきたくと考えています。

このことは、授業以外の「部活動」や「行事」の中でも、同じように意識して取り入れようと努めています。そうすることで、生徒たちには、これからの予測不可能な社会をたくましく生き抜く力が育成されると考えています。

- ③ **歴史や伝統、積み重ねの大切さ**を自覚した中での教育を展開したいと思っています。

学園祭の取組などの中で、生徒から西中の伝統を大切にしたい。これまでの積み重ねにさらに歴史を加えていきたい。といった言葉を聞くことがあります。

学力向上で一番大切なのは、**関心・意欲**だと思っています。それぞれの学習や取り組みに興味・関心を抱き、こんな風に組みたいんだといった追求(究)心につながるような意欲がもてたら、まさに主体的な学習が実現できると私は思っています。こうした点につながるのが、本校の校風であるし、歴史や伝統の力だとも感じています。こうした側面なども、大切にしていこうと考えています。

【保護者や地域の皆様へ】 ※上記の①～③にぜひご賛同いただき、側面から学校をご支援いただけたら幸いです...

子供と接する際、頭ごなしに押し付けるのではなく、子供を尊重し、子供の考えや意見、思いを表現させながら、大切に育てようとしてほしいと思っています。こうした粘り強い大人の姿勢が、子供の主体性につながるはずです。

また、何かを深く考えるには、それなりの内容が必要ですが、家庭や地域に子供たちが進んで夢中になること、深く思考することがたくさんあると思っています。また、社会の変化から、周囲と対話することや家庭や地域における子供に任された役割が減少している実態も感じています。これらをヒントに、ぜひ学校と連携・協働していただけたら幸いです。

西中は来年70周年記念の年を迎えます。これまでの積み重ねを生かせるよう、こうした機会も大切にしたいと考えています。